

「内部統制」は他人事ではない！ 本質を捉え、コストをかけずに 対応する方法とは？

「奉行 DOCUMENT Pack」は、コストをかけずに内部統制の強化を進められるツールだ。中堅中小企業にとって、内部統制は「関係ないこと」ではなく、取引先との関係を強め、また自社の業務効率化を図るチャンスである。

2006年6月、いわゆる日本版 SOX法の核となる「金融商品取引法」が成立した。上場企業においては、2009年3月期の決算から内部統制報告書の提出・公認会計士によるチェックが義務付けられる。これを受け上場企業（および子会社）では着々と準備が進んでいるが、一方で、直接的な規制を受けない中堅中小企業では「自社には関係ないのでは？」とする向きもある。どの程度対応していくべきなのだろうか。

内部統制対策が企業価値を高める

中堅中小企業向けの基幹業務ソリューションを提供しているオービックビジネスコンサルタント（OBC）では、「内部統制への対応はビジネスに影響を及ぼす」と見ている。

取引先が上場企業であれば、今後取引条件や入札条件に内部統制強化

への対応が加えられると予測される。

仮に明示されなくとも、的確な対策を実施していれば、同業他社に比べ信頼性の高さをアピールできるだろう。プライベートマークの取得などと同様、自ら率先して取り組むことが企業価値の向上を導くのである。

ただ、検討を始めると、直面するのが「費用の壁」だ。コンサルティングを依頼すると数千万円、ITツールを使っても数百万円かかるのが相場と言われているからだ。

そこでOBCでは、コストを抑えつつ必要な対策を実行できるツールとして「奉行 DOCUMENT Pack」を新発売した。価格は税込36万7500円からと、非常に導入しやすい価格設定だ。

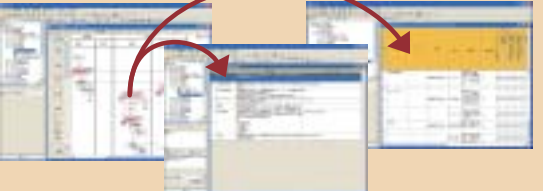
リスクの洗い出しもスムーズ

内部統制対策は、文書化、基

幹業務の標準化・パッケージ化、連結企業における基幹システムの統一の3点がポイントと言われる。は奉行シリーズを利用していただくと条件をクリアしており、注力すべきは、の文書化によるリスクの洗い出しと改善になる。何故なら、この文書化にコストがかかり作業負担が大きいためだ。

具体的には、業務の各段階で発生するリスクとコントロールを明確にするための、文書化3点セットといわれる「業務フロー図」「リスクコントロールマトリクス（RCM）」「業務記述書」の作成作業が中心だ。

「奉行 DOCUMENT Pack」



「奉行 DOCUMENT Pack」

一つの文書に入力した内容は関連する文書に同時に反映される。サンプルは業種・業務に応じて用意されている。

スターター
シングルライセンス版 **367,500**円(税込)

Windows Vistaに対応した「奉行21Ver.」でも利用可能
さらに実務作業について詳しく知りたいユーザー向けには「奉行 DOCUMENT Pack 文書化実務スクール」も開設している。

は、こうした文書の作成に役立つツールと文書サンプルを提供する。本パッケージの文書作成ツールでは、複雑な業務フロー図を直感的な操作で描くことができる。一つの文書に記載した内容は関連文書に自動的に反映されるので、組織や業務内容の変更時も、修正が容易だ。

また、業務段階ごとに発生しうるリスクやコントロールの記述に際しては、あらかじめ豊富なサンプルが登録されているので、そこから該当するものを選んで編集していけばよい。白紙の状態で考えるのに比べ、作業も早く、また漏れも少なくなるだろう。

OBCでは、「業務の可視化を通じて効率化やIT活用が必要な部分が見えてくると思っています。内部統制への取り組みを業務改革の機会と捉えてほしい」と呼びかけている。「奉行 DOCUMENT Pack」ならコストをかけずに本に必要な対策を実行できる。

お問い合わせ先

株式会社オービックビジネスコンサルタント

東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー
URL : <http://www.obc.co.jp/>